



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

京都大学・日本財団高度人材育成プログラム



京都大学学際融合教育研究推進センター

森里海連環学教育ユニット



Educational Unit for Studies on
the Connectivity of
Hills, Humans and Oceans (CoHHO)





ご挨拶

我が国は海に囲まれた森と里の国です。日本列島の中心を走る脊梁山脈に降った雨は、森をはぐくみ、里を潤し、日本海や太平洋に注ぎ、豊かな海の生産を支えます。このような水を通した森、里、海そして人のつながりは、決して一方通行ではなく相互に関係するものであり、それを連環と称します。生態系の連環は程度や質の違いはあっても地球上の全てにおいて成立する関係です。また、自然だけでなく、人間の活動や生き方が連環と深く関わっています。地球のシステムには長期間の人間活動の影響が蓄積され、ついに閾値を超えたかのように複雑で深刻な地球環境問題が発生しつつあります。一方、これまでの科学は、研究対象を個別細分化して、深く掘り下げる方向に発展してきました。環境や生態系研究においても同様であり、森の研究者は森を、海の研究は海しか見ませんでした。しかし、そのような個別の観点だけでは決して地球環境問題は解決しないことが分かってきました。すなわち、森と川と海、そして人間との深くて密接な連環の解明こそが、問題解決の鍵であり糸口となります。

このような生態系間のつながりを、京都大学では「森里海の連環」とよび、森里海連環学の教育と研究を通して、我が国の健全な国土の再生をめざしています。森里海連環学では、持続可能な社会をめざした自然環境の価値と評価の基準、それを管理する社会の仕組みが極めて重要です。すなわち、森里海連環学は、自然科学にとどまらず、経済学、法学、社会学など文系的な視点も含めた分野横断的学際融合科学です。森里海連環学を基盤とした高等教育を行うために、私たちは京都大学に「森里海連環学教育ユニット」を設立しました。本事業によって多数の優秀な人材を社会に送り出し、そうした人材が、これまでにはなかった視点、すなわち陸域との連環を重視した沿岸管理と海への影響を考慮した流域管理を担い、国際的にも活躍することを期待しています。

森里海連環学教育ユニット長 山下 洋

1

森里海連環学とは何か

『近年急速に進行している地球環境問題の多くは、森林、河川、沿岸、海洋などの生態系間のつながりやこれら生態系と人間社会とのつながりが損なわれてきたために生じたのではないかと私たちは考えています。そして、これらのつながりを科学的に解明し、取り戻し、人と自然の関わり方を考え直すための新しい文理融合型学問として「森里海連環学」が生まれました。森林域、河川域、沿岸域、海域および里域における自然、人文、社会科学に関するあらゆる学問が含まれます。

京都大学農学研究科、人間・環境学研究科、地球環境学堂・学舎およびフィールド科学教育研究センターは、(公財)日本財団の支援を受けて、2012年4月、学際融合教育研究推進センターに「森里海連環学教育ユニット」を設立しました。

2

森里海連環学教育ユニットがめざすもの

森里海連環学教育ユニットは、森里海連環学の理念に基づき、環境問題の解決に向けた国際的な人材を育成するために、京都大学のすべての大学院生を対象に、「森里海連環学教育プログラム」を2013年4月より5年間の予定で開講しました。大学院生の教育とともに、日本をはじめ世界のさまざまな地域の流域・沿岸域の環境を守り、改善することをめざして、社会への広報・貢献活動にも力を注いでいます。

現在の日本および世界の環境問題に危機感をもち、問題解決に自ら貢献したいと考えている大学院生にとって、この教育プログラムは必ず有用なものとなります。森里海連環学を習得した本プログラム修了生が、国内外を舞台として多様な分野や観点から、持続的な地球環境の保全と人間社会の構築のために活躍することを期待しています。



3

森里海連環学教育プログラム

森里海連環学教育プログラムは必修科目2科目、履修推奨科目2科目および選択科目として「森」、「里」、「海」とこれらを「総合」した多くの関連科目で構成されており、学際的プログラムとなっています。必修科目には第一線で活躍する学外の研究者を招いて森里海連環学に関する講義をリレー方式で行う「流域・沿岸域統合管理学」およびインターンシップや研究課題についてのプレゼンテーション・ディスカッションを少人数ゼミ方式で行う「森里海国際貢献学」、履修推奨科目には海外の教育研究機

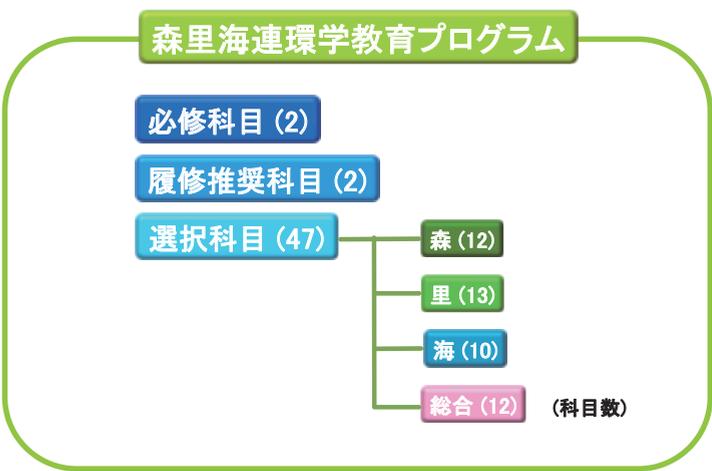


関、行政組織、NGOや国内の国際機関において研修を行う「インターンシップ」、および英文で書かれた修士・博士論文と森里海連環学との関連性を評価する「森里海特別研究」を設定しています。

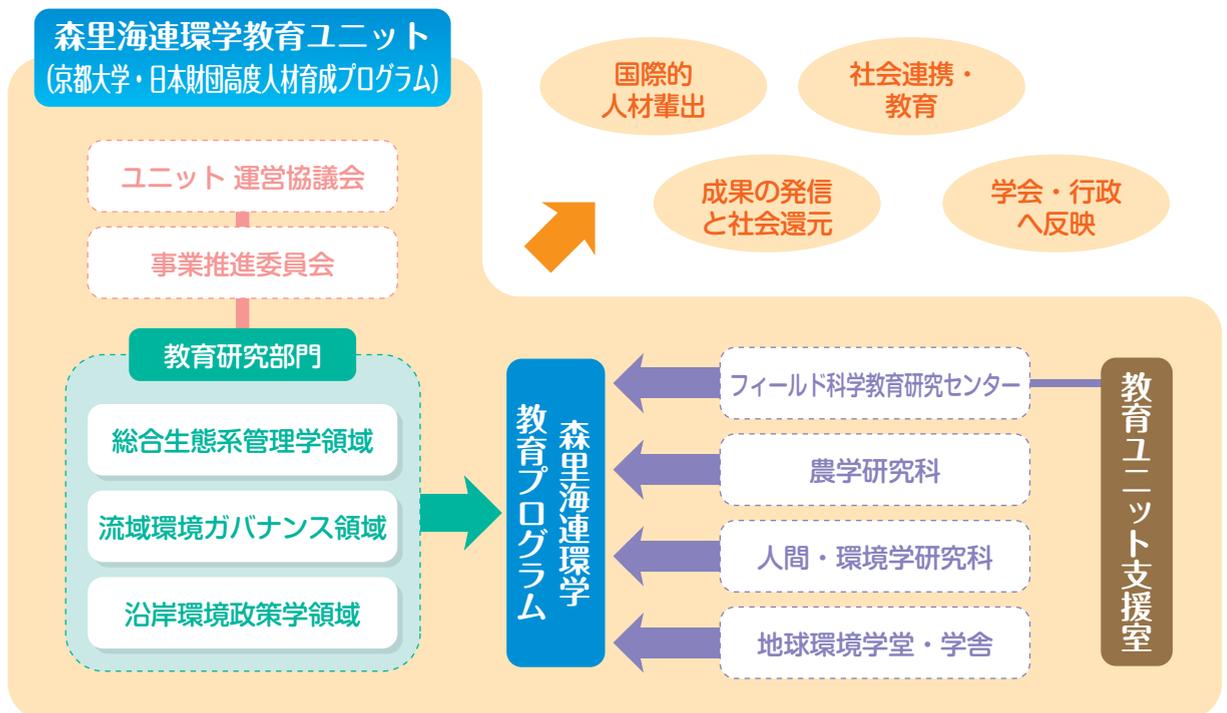
講義は原則として英語で行います。このため、受講生の英語能力の向上を図るための英語スキルアップ講座を開設しています。また、修学を支援するため、インターンシップにかかる経費や国際学会・シンポジウムで成果を発表するための経費、優秀な留学生を支援する奨学金を用意しました。標準的な履修期間は2年を想定していますが、14単位相当を修得すれば最短1年で修了可能です。

- ・2013年度（第1回）修了生……………26名
- ・プログラム履修生（2014年4月現在）……………99名（9研究科）

詳しくは履修要覧またはホームページ
<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/cohho/>
 をご覧ください。



事業推進組織図





スタッフ

本ユニットは、農学研究科、人間・環境学研究科、地球環境学舎・学舎、フィールド科学教育研究センターが協力して運営し、それぞれの部局から5名の教員が本ユニットに所属し、プロジェクト雇用教員4名と研究員2名、教務補佐員1名、特定職員2名、事務補佐員3名の、合計17名が構成員となっています。

(2014.7 現在)

ユニット長 山下 洋 (フィールド科学教育研究センター)

教育研究部門 cohho@kais.kyoto-u.ac.jp

[総合生態系管理学領域]

教授 山下 洋 (フィールド科学教育研究センター)
教授 朝倉 彰 (フィールド科学教育研究センター)
特定教授 横山 壽 (フィールド科学教育研究センター連携教授)
特定講師 LAVERGNE Edouard Alexandre (フィールド科学教育研究センター連携講師)

[流域環境ガバナンス領域]

教授 柴田 昌三 (地球環境学舎)
教授 星野 敏 (農学研究科)
特定准教授 清水 夏樹 (フィールド科学教育研究センター連携准教授)

[沿岸環境政策学領域]

教授 浅野 耕太 (人間・環境学研究科)
特定准教授 吉積 巳貴 (フィールド科学教育研究センター連携准教授)

[研究員・教務補佐員]

研究員 安佛かおり
研究員 長谷川路子
教務補佐員 黄 琬惠

ユニット支援室 Tel: 075-753-6487 cohhojimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

特定職員 林 晴夫
特定職員 永田 裕美
事務補佐員 富田 寿子
事務補佐員 梅谷佳菜子
事務補佐員 佐野佳代子

協力教員

農学研究科から24名、人間・環境学研究科から4名、地球環境学舎から17名



京都大学の京大フレーム工法により、研究林の杉の間伐材を利用した、耐震性に優れた京都大学フィールド科学教育研究センターの連携研究推進棟。森里海連環学教育ユニットの本部が研究室および会議室として利用している。杉の香りが残る木造建築の伝統を生かした建物。

所在地 Access



〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学フィールド科学教育研究センター内
森里海連環学教育ユニット
<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/cohho/>
E-mail: cohhojimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp